



大槌

from 東北

# 現地支援委員会

ニュースレター

「第23号」

2016年5月25日

全国諸教会の皆様、日頃からお支えと励ましをありがとうございます。2016年度が始まりました。刻々と変わる状況に対応しながら、私たちは今年度も支援活動を継続します。引き続きご支援とお祈りをお願いいたします。今号では、岩手県大槌町での働き、熊本・大分地震を受けての東北の動きをお届けします。

## 大槌町安渡支援について

東日本大震災が発生して5年が経過しました。大槌町安渡では、今もなお嵩上げ作業が続けられています。震災から5カ月後に多くの人たちが仮設住宅での生活を始めましたが、その時点での仮設住宅での生活年数は2年という見通しでした。しかし、それから半年後には5年、さらに半年後には7年から8年の見通しとなっていきました。原因の一つは、新たな造営地として考えられた山林地帯の土地の多くが、何代も前の方の所有名義になっていて、区画整理がなかなか進まなかったことです。また、安渡の周辺には国道やJR鉄道のトンネルが数本あり、住宅地を造営するにも各方面の承諾や手続きが必要で、その範囲もかなりの制限を受けたということです。

その中で、安渡では避難所も兼ね備えた公民館を先に建て、そこを中心に町を形成していく方針が立てられました。この公民館も、当初の計画では2016年4月に開館予定でしたが、現在は11月の完成を目指して急ピッチで工事が進められています。

津波によって破壊された堤防は、5年経過した今もそのままにされています。その前には、ようやく食品会社やコンビニエンスストアが建てられましたが、仮設住宅の高齢者の方々が徒歩で買い物ができるまでには、まだ時間が必要です。そして、仮設住宅の皆さんがご自分の住まいを持ち、落ち着いた生活ができるまでには、まだ2年から3年は掛かると言われています。私たち教会は、小槌の地

域も訪れていますが、こちらの仮設住宅でも、やはり2年から3年はご自分の住まいを持つことができない方がおられます。

東日本大震災は、未曾有のものであったと言われています。たしかに地震の大きさや規模、その被害の大きさなどを見ると未曾有のものでした。また、なかなか見通しが立てられないその復興作業も未曾有のものと言えましょう。そう考えるならば、実は震災はどれも未曾有のものばかりと言えるでしょう。過去の震災のお話をうかがっても、それぞれの地域において、それぞれの被害のあり方があり、また、それぞれの復興作業の課題がある。そこにおいては、すべて見通しが立てられ、すべて計画通りに進められた復興作業などないからです。そして、そこには多くの方々の悲しみと怒り、嘆きと叫びがある。今後も、過去の震災とそれによって現在も続く課題に向き合う方々の声に聞きつつ、同時代に被災された他の地域の方々、また、その地域に関わる方々ともお互いの声を分かち合い、私たち教会に与えられた役割を担っていきたいと思います。

(盛岡教会 大須賀 真人)



元安渡小学校跡地に新しい安渡公民館



まだまだ続く嵩上げ工事



震災直後に生まれてもうじき5歳の少女。母と祖母に見守られて

## 南九州へ東北から牧師を派遣 ～熊本・大分地震～

熊本・大分地震が発生し、東北連合は5月10日(火)～13日(金)に金丸真牧師(長命ヶ丘教会)と田中信矢牧師(南光台教会)を南九州に派遣しました。これは、南九州連合からの要請もあり、東日本大震災から5年の東北の教会の歩み、震災対応のための教会の選び取りと失敗などを含め、その経験を分かち合わせていただくためです。踊真一郎牧師(久留米教会)の案内で熊本の益城町や御船町、宇土市などの被災地、熊本に建てられた教会をお訪ねし、また国分教会にて南九州連合の三役の徳淵敬尚牧師、齋藤智恵子姉、マウマウタン牧師、被災支援担当の麦野達一牧師との情報交換と協議を行いました。これはある意味、東北にしかできない支援だと考えたからです。

そして今回の訪問のもう一つのミッションは、この5年間通い続けた宮前仮設住宅の中学生たちが準備してくれた、熊本の方々への励ましの手紙を熊本の教会へお届けするというものでした。私たちが熊本に行くことを知り、仮設住宅を出てバラバラの生活になったにもかかわらず自主的に連絡を取り合って70通を超える手紙とカンパを集め、わざわざ長命ヶ丘教会まで持ってきてくれました。この出来事に熊本の方々のみならず、私たち自身も励まされました。

そのお手紙の一例を紹介します。「熊本のみなさんへ。このたびは大きな地震が起きて怖かったですね。僕たちも東日本大震災の時はとても怖かったです。でも仲間はすぐそばにいます。まわりの人を信じていれば絶対に良いことがあるはずですよ。がんばりましょう！」

「今は遠い道のりに思えても、必ず良くなる日が来ます。ずっと応援しています。私たちがしてもらったように」。

被災地同士の温かなつながりを生んでくださった主イエスの先立ちに心から感謝いたします。

(長命ヶ丘教会 金丸 真)



国分教会での分かち合い



元宮前仮設の中学生が準備してくれたお手紙とカンパ

お手紙をお届けした熊本東教会